

平成28年度エイズ予防財団助成事業実績報告書

実施団体	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
実施事業名	横浜、京都、陸前高田、佐賀での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発事業
団体代表者	組織委員長 田口努
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「AIDS文化フォーラム」の開催を通じて、より多くの人にエイズについて知ってもらい、予防啓発を行うこと。 ・年間を通じて国内数か所でフォーラムを開催することにより、エイズ普及啓発の機会と啓発対象者の裾野を広げること。 ・エイズ関連の活動に関わる人たちをつなぎ、団体や担い手のエンパワーメントに貢献すること。 ・各地での普及啓発イベントとしてのフォーラムを定着させること。
事業の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施できなかった佐賀での開催を含め、以下のように4会場で開催することができ、相互に協力し、共通のプログラムを含む、様々なプログラムを行うことができた。 2016年6月25日(土)～26日(日) AIDS文化フォーラムin佐賀 2016年8月5日(金)～7日(日) AIDS文化フォーラムin横浜 2016年10月1日(土)～2日(日) AIDS文化フォーラムin京都 2016年11月20日(日) AIDS文化フォーラムin陸前高田 ・4会場での開催になったが、来場者目標の6,000人に迫る延べ5,398人の来場者を獲得し、昨年の来場者数を上回ることができた。(前年度5,201人) ・4会場で延べ217人のボランティアの参加を得ることができ、若い世代への啓発を強めることができた。 ・各会場で新たな発表、展示団体の参加を得て実施することができ、各地域で活動する諸団体、地元地域以外で活動する諸団体と連携することで、地域のエイズ関連の諸活動団体(者)のエンパワーメント・連携、一般市民への啓発をより強めることができた。 ・各会場で交流プログラムを行うことで、来場者や、参加団体が新たなネットワークを構築することができた。
事業実績	対象となった人数(実質) 主な対象: 各開催地を中心とした一般市民。HIV陽性者・エイズ患者などPWA/H、保健・医療関係者、教育関係者、行政機関関係者、国際団体、NGO/NPO関係者、青少年、セクシュアルマイノリティ等 来場者: [佐賀]656人 [横浜]3,542人 [京都]1,000人 [陸前高田]200人 計5,398人 団体数: [佐賀]31団体 [横浜]55団体 [京都]49団体 [陸前高田]19団体 計154団体 ボランティア: [佐賀]71人 [横浜]72人 [京都]54人 [陸前高田]20人 計217人
	具体的な活動内容 【横浜、京都、東北での「AIDS文化フォーラム」開催】 1. (第2回)AIDS文化フォーラムin佐賀 開催日: 2016年6月25日(土)、26日(日) 会場: アバンセ(佐賀県立男女共同参画センター、佐賀県立生涯学習センター) プログラム: 発表プログラム17 展示ブース12 交流プログラム2 参加団体: 31団体 / 入場者数: 656人 / ボランティア: 71人 2. (第23回)AIDS文化フォーラムin横浜 開催日: 2016年8月5日(金)、6日(土)、7日(日) 会場: かながわ県民センター プログラム: 発表プログラム49 展示ブース13 交流プログラム2 参加団体: 55団体 / 入場者数: 3,542人 / ボランティア: 72人 3. (第6回)AIDS文化フォーラムin京都 開催日: 2016年10月1日(土)、2日(日) 会場: 同志社大学及び同志社大学尋真館 プログラム: 発表プログラム36、展示ブース19 参加団体: 49団体 / 入場者数: 1,000人 / ボランティア: 54人 4. (第4回)AIDS文化フォーラムin陸前高田 開催日: 2016年11月20日(日) 会場: 陸前高田市コミュニティホール プログラム: オープニング、はまかだトーク、サバイバルガイド、はまかだライブ、展示コーナー 参加団体: 19団体 / 入場者数: 200人 / ボランティア: 20人 ※フォーラムの運営組織は各開催地の状況に合わせ、開催地域を中心に活動するフォーラムの対象者でもある大学生をはじめとした青少年および一般市民や教育関係者、保健医療関係者などで構成した。 ※全国からの発表者、来場者が集まり、お互いの取り組みを学び合った。来場者の交流スペースを充実させ、情報交換を行った。 ※連携プログラムを以下の通り実施し、各開催地からの参加者と学び合い、交流を行った。 ・広がるAIDS文化フォーラムパネル展を4ヶ所共通で実施した。 ・フォトジャーナリスト安田菜津紀さんのスライドショー「HIVと共に生きるカンボジアの人々/復興へと歩む陸前高田の人々」を4ヶ所共通で実施した。 ・佐賀、横浜、京都で宗教とエイズを実施した。 ・その他、各開催地の特徴は以下のとおり。 (佐賀)2回目の開催となり、佐賀県内だけでなく、九州の他県からの参加か団体が増え、より多様な内容となった。全国からの講師による講座を行うことができた。 (横浜)「つながる、ひろがる、わかちあう」をテーマにプログラムを実施。薬物、ネット被害、治療、青少年、障がい者などに関して、社会の社会状況に合わせた様々な講座が開催された。ワークショップや交流スペース、ネットワーキングTEAパーティーを充実させ、多くの来場者や参加団体が交流することができた。全国からの講師による講座を行うことができた。 (京都)昨年度に引き続き、プレイベントや即日検査を実施し、検査は55人が受検した。閉会式にはタレントのミッツ・マングローブさんのトークライブを行い、性の多様性を知ることからHIVを理解し、HIV/AIDSが決して他人ごとではないことの啓発を行うことができた。全国からの講師による講座や音楽ライブを行うことができた。 (陸前高田)「復活の道しるべ陸前高田応援マラソン2016」と同時開催。マラソン参加者もAIDS文化フォーラムの展示やプログラムに参加した。全国からの講師による「いま、若い世代に伝えたいサバイバルガイドコミュニケーション・ネット・デートDV・HIV/AIDS・失恋」を実施できた。全てのプログラムが「はまってください、からってけらいん(集まって語ろう)」をテーマに行われた。 ※年間を通じ、エイズに関する情報や開催地の準備状況などを公開し、相互に企画運営協力を行った。また、開催地域間の運営ノウハウの支援を行い、各開催地でフォーラム開催の効果が最大限発揮できるよう協力した。
活動の様子	別紙広がるAIDS文化フォーラム参照

広がるAIDS文化フォーラム

2016 報告書

助成金：公益財団法人エイズ予防財団（平成28年度エイズ予防財団助成事業）



AIDS 文化フォーラム in 佐賀

2016 6/25(土)~ 26(日)

エイズを知ろう、エイズで学ぼう

- 会場** アバンセ（佐賀県立男女共同参画センター、佐賀県立生涯学習センター）
- 参加者** 656人
- プログラム** 発表プログラム17 展示ブース12 交流プログラム2
- ボランティア** 71人
- 主催** AIDS文化フォーラムin佐賀運営委員会
- 共催** 産学官包括連携協定（佐賀県 佐賀大学 佐賀県市長会 佐賀県町村会
佐賀県商工会議所連合会 佐賀県商工会連合会）
（公財）佐賀県女性と生涯学習財団 思春期ネットワーク・佐賀
- 運営** AIDS文化フォーラムin佐賀運営委員会

AIDS文化フォーラム in 佐賀を振り返って…

（1）開会式・閉会式

2015年2月の第1回開催から、1年半ぶりの第2回佐賀開催となりました。

開会式で「なぜAIDS?なぜ文化?なぜ佐賀?」について、参加者全員で開催意義を再確認しました。閉会式では、8月開催の横浜、10月開催の京都、11月開催の陸前高田からの挨拶と案内を行い、全国にバトンをつなぎ会を終了しました。

（2）分科会

第1回AIDS文化フォーラムin佐賀開催同様、AIDS文化フォーラムin横浜、京都、陸前高田からの発表および参加協力がありました。

発表プログラムは、佐賀県内で活動する団体発表に加え、福岡・熊本・宮崎・鹿児島など九州内の参加者が増えました。内容も昼間は学術的な医療・教育・ICT関連・宗教に関する内容と、夜は若者を対象とした交流啓発イベントなど、多様なプログラムとなりました。

（3）展示

今回は、佐賀市アバンセが会場となり、研修会場は4階、展示会場1階となりました。多くの展示団体の参加、来場者に展示を通してメッセージを伝えました。

展示会場に安田菜津紀氏のスライドショーを開催し、来場者がじっくり見入る姿が印象的でした。

（4）広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

横浜、京都、陸前高田からの発表者の参加や、各地のAIDS文化フォーラムの展示を行いました。

また、各地のAIDS文化フォーラムと協力し、写真家、安田菜津紀氏のスライドショー「HIVと共に生きるカンボジアの人々／復興へと歩む陸前高田の人々」を実施することができました。

宗教者エイズ語る

佐賀でイベント、神父ら参加

「第2回 AIDS文化フォーラムin佐賀」が6月25日と26日、佐賀市内の学習センターで開かれた。テーマは「エイズを知ろう、エイズで学ぼう」。主催は自主的に集まった佐賀運営委員会。佐賀県や佐賀大学などが共催し、十以上の団体が後援した。

「第2回 AIDS文化フォーラムin佐賀」が6月25日と26日、佐賀市内の学習センターで開かれた。テーマは「エイズを知ろう、エイズで学ぼう」。主催は自主的に集まった佐賀運営委員会。佐賀県や佐賀大学などが共催し、十以上の団体が後援した。



入場・参加 無料！ 最新情報はこちら【<http://abfs.red>】

AIDS Bunka Forum in Saga

第2回 AIDS文化フォーラムin佐賀
 テーマ「エイズを知ろう、エイズで学ぼう」
 2016年6月25日(土) 26日(日) 会場 アバンセ
 〒840-0815 佐賀市天神3-2-11 0952-26-0011

主催 AIDS文化フォーラムin佐賀運営委員会
 共催 産学官包括連携協定(佐賀県 佐賀大学 佐賀市長会 佐賀県町村会 佐賀県商工会議所連合会 佐賀県商工会連合会) (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 思春期ネットワーク・佐賀一般社団法人佐賀県医師会 佐賀県産婦人科医会 佐賀県看護協会 九州龍谷短期大学 九州恩春期研究会 佐賀女子短期大学 佐賀県高等学校PTA連合会 NPO法人 JASH 日本性の健康協会 NPO法人ピルコン とともに拓くLGBTIQの会くまもと JICA九州



「宗教とエイズ」の対談

山強美神父(長崎教区)、このフォーラムの運営委員でもある佐賀県伊万里市の浄土真宗本願寺派僧侶の古川潤哉師の3人。

最初に岩室さんが、2004年にカトリックが開催した濱口吉隆神父(神言修道会)の講演会の模様を振り返った。来場者の一人が「同性愛者でHIVに感染しています」と方ミングアウト(表明)した時、濱口神父が「一緒に考えていきましょ」と答えた。岩室さんは宗教の存在意義を強調した。濱野教授も牧山神父も倫理学を教えている立場から、岩室さんの性的少数者に対する捉え方についての問い掛けに答えた。

濱野教授は「自分と違う存在を許さないという態度でなく、一緒に生きる。私たちは見捨てられていないということを分かち合おう。牧山神父は「相手を責めた」という声があった。

また来場者からは、「浄土真宗、バプテスト、カトリック、どの宗教からも、とても本質をついた話が伝わってきた」という声があった。

2016年7月17日(日) カトリック新聞



AIDS 文化フォーラム in 横浜

2016 8/5(金)～7(日)

つながる、ひろがる、わかちあう

会場 かながわ県民センター
参加者 3,542人
プログラム 発表プログラム49 展示ブース13 交流プログラム2
ボランティア イベントボランティア 72人
主催 AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
共催 神奈川県
運営 AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
事務局 (公財)横浜YMCA

AIDS文化フォーラム in 横浜を振り返って…

(1) 開会式・オープニング「つながる、ひろがる、わかちあう」
脳性まひの障がいのある熊谷晋一郎先生の言葉「自立は、依存先を増やすこと」、「希望は、絶望をわかちあうこと」。なぜ、この言葉が生まれたのか。孤立や困難をのりこえるLGBTたちのためのサポート・チームにてLGBT、依存症患者、自死遺族、HIV陽性者として、当事者支援活動を行っている谷山廣さんとともに、今年のテーマ「つながる、ひろがる、わかちあう」について考えました。

(2) 分科会
各団体、オリジナリティのあるプログラムで多くの来場者がありました。「つながる、ひろがる、わかちあう」のテーマに沿った多くの発表がありました。
北山翔子氏が自身の体験を語った「神様がくれたHIV」や、新宿コミュニティー教会 中村吉基牧師・浄土真宗本願寺派浄誓寺 古川潤哉僧侶らが登壇し、宗教が現代にもたらす意味を話し合った「宗教とエイズPart11」などを行いました。特別企画として、「夜回り先生」として知られる水谷修氏を招いて行った講座には、多くの入場者が訪れました。

(3) 展示場
今年も京都、陸前高田、佐賀へと広がったAIDS文化フォーラムのパネル展「広がるAIDS文化フォーラム」を開催しました。交流コーナーを設置し、自分でレッドリボングッズが作れるワークショップを今年度も実施しました。今年から新たに加わったプラ板づくりも好評でした。また、横浜雙葉高等学校茶道部によるお茶席も開催され、多くの来場者でにぎわいました。

(4) 広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」
エイズ予防財団からの支援を得て、昨年度の京都、陸前高田、今年度の佐賀の開催報告の「広がるAIDS文化フォーラム」パネル展示を行い、全国への広がりや連携をアピールできました。また、フォトジャーナリスト安田菜津紀氏のスライドショーを行いました。「HIVと共に生きるカンボジアの人々」「復興へと歩む陸前高田の人々」の写真を多くの方にご覧いただけました。



第23回 AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

今年のテーマ **つながる ひろがる わかちあう**

2016 8/5(金) → 7(日)

開催時間 10:00 - 17:30 (最終日 16:00) 参加自由・入場無料

開催場所 **かながわ県民センター**

主催 AOD文化フォーラム実行委員会
 公益財団法人横浜YMCA、社会福祉法人横浜のいのちの電話、かながわ県民センター、
 公益財団法人横浜YWCA、フィランソロピー国際協会日本支部 横浜・神奈川
 共催 神奈川県
 後援(予定) 横浜労働局、神奈川県、横浜市長、横浜府庁、横浜商工会議所、
 神奈川県教育委員会、公益財団法人エイズ予防財団

会場案内 <http://www.yokohamamca.org/AIDS/> AIDS文化フォーラム横浜 横浜

かながわ県民センター 横浜駅西口徒歩5分 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2



AIDS 文化フォーラム in 京都

2016 10/1(土)～2(日)

レッドリボン大作戦

- 会場** 同志社大学 新町キャンパス 尋真館 3・4階
参加者 約1,000人
プログラム 発表プログラム36 展示ブース19
ボランティア サポートスタッフ 54人
主催 AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
共催 京都府、京都市
運営 AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
事務局 (公財) 京都YMCA

AIDS文化フォーラム in 京都を振り返って…

プログラムについて

(1) 開会式・閉会式

「若手医師のHIV診療～これまでの経験、これからのHIV診療のすすむべき道～」で、HIV診療に関わっている4名の医師のお話から現在のHIV診療や長期的な問題、社会的問題について学びました。閉会の全体会は、『ミッツ・マングローブ!“AIDS文化フォーラムin京都”で何を語る?』と題して、「今、エイズってどうなってるの?」のミニレクチャー、歌手・タレントのミッツ・マングローブさんのトーク・ライブを行いました。性の多様性を知ることからHIVを理解していくこと、HIV/AIDSが決して他人ごとではないことの啓発を目指しているAIDS文化フォーラムin京都にふさわしい学びのときとなりました。

(2) 分科会

〔共に生きる〕〔予防〕〔文化〕〔セクシュアリティ〕〔教育〕〔保健・医療・福祉〕〔若者〕をキーワードに多彩なセッションを行ないました。第1回から継続しているものに加えて今年から参加のセッションも増え、多くの来場者がありました。また、共催の京都市保健医療課によるHIV抗体即日検査(無料・匿名)を実施し、55人が受検しました。

(3) 展示

横浜、陸前高田、佐賀のAIDS文化フォーラムの様子を展示し、広がりを紹介することができました。共催の京都府、京都市による「京都府保健所のエイズ等予防教育」「HIV検査ってなんだろう?」「デートDV」についてなど、前回以上にブースで様々な活動を展示できました。

(4) 広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

プレイベントを京都府北部地域でも開催。他の開催地のAIDS文化フォーラムでの展示発表2017年2月18日開催のH28年度関西HIV臨床カンファレンスNGO・NPO交流会で活動報告発表予定。

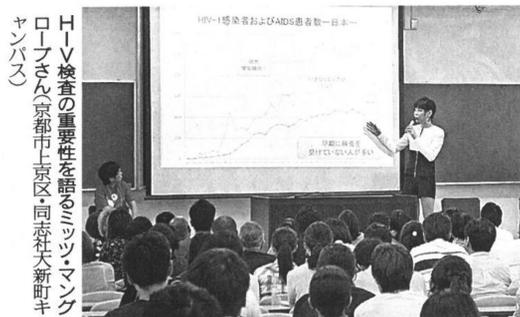
(5) プレイベント 講演会「セクシャリティ～みんなちがってみんないい～」

2016年8月1日：大江町総合福祉会館、8月3日：京都市北文化会館

講師：繁内幸治氏(ひょうご人権ネットワーク会議構成団体BASE KOBE 代表)



エイズ、人ごとでない



エイズについて学ぶトークライブが2日、京都市上京区の同志社大新町キャンパスであり、「女装家」として活動するタレント、ミッツ・マングループさん(41)らがHIV検査の重要性について

上京で講演

HIV検査の重要性を語るミッツ・マングループさん(京都市上京区・同志社大新町キャンパス)

ミッツさんから登壇「検査受けて」

「検査受けて」と話した。危険感を持って

語った。ミッツさんは約400人の市民に「人ごと考えないで」と訴えた。医師や市民団体が毎秋に開く「AIDS文化フォーラムin京都」の一環。京都大医学部の高折晃史教授が講演した。京都府ではHIV感染者の新規報告が高止まりしており、中でもエイズを発症して初めて感染発覚する人が半数弱を占め、全国よりも比率が高いと話した。また「薬が開発されており、今ではウイルスを抑えることができる」とした。ほかの医師らとミッツさんが加わりトークライブが行われた。ミッツさんは半々に1回ほど、ほかの血液検査に合わせてHIVの項目も調べてもらっている」と述べた。府内の保健所で無料、匿名で検査を行っていることも紹介された。登壇したHIV陽性者の男性が「自分の身と他人を守るためにも検査を受けてほしい」と呼び掛けた。ミッツさんは「同性のパートナー間で感染があり得ることを踏まえて、ミッツさんは「どんな人でも関係ない人はいない。危機感を持つ

(浅井佳穂)

HIV感染者の新規報告、府内高止まり

第6回AIDS文化フォーラムin京都

レッドリボン大作戦

2016.10.1(土) 12:30-18:30
2回 10:00-17:00

会場 同志社大学 新町キャンパス 尋真館
京都市地下鉄烏丸線「今出川駅」④番出口より徒歩5分
(新町通今出川上ル)

参加自由
事前申し込み不要
入場無料

http://hiv-kyoto.com

AIDS 文化フォーラム in 陸前高田

2016 11/20(日)

※東日本大震災前に6回、震災により一時中断、
震災3年後に復活し、10回目の開催



ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりイベント 「ともに生きる～誰もが住みやすいまちに～」

- 会場** 陸前高田市コミュニティホール
参加者 約200人
プログラム オープニング、はまかだトーク、サバイバルガイド、はまかだライブ、展示コーナー
主催 AIDS文化フォーラム in 陸前高田運営委員会
共催 一般社団法人陸前高田青年会議所、陸前高田市、岩手県大船渡保健所、
特定非営利活動法人陸前高田市支援連絡協議会Aid TAKATA（陸前高田災害FM）

AIDS文化フォーラム in 陸前高田を振り返って…

(1) AIDS文化フォーラム in 陸前高田と陸前高田応援マラソンの同日開催。

陸前高田市では東日本大震災からの復興に向けて様々なイベントが開催され続けています。AIDS文化フォーラム in 陸前高田は昨年、震災後、5年ぶりに開催された健康のつどいと共同開催に引き続き、今年度は陸前高田市教育委員会と陸前高田市体育協会が主催し、アディダスジャパンなどの協賛を得て開催された「復活の道しるべ陸前高田応援マラソン2016」と同日に開催しました。午前中のマラソンにはAIDS文化フォーラム in 陸前高田運営委員のみならず、午後からのフォーラムの参加者も参加し、AIDS文化フォーラム in 陸前高田のPRも行いました。マラソン会場への送迎拠点となったコミュニティホールの前で降りたマラソンの参加者はコミュニティホールの展示やイベントに立ち寄りてくださいました。



2016年11月24日 東海新報



(2) はまかだトーク：ともに走ろう、ゴールは一緒 脳性まひの障がいがある熊谷晋一郎先生と「自立は、依存先を増やすこと」、「希望は、絶望を分かち合うこと」について考えます
熊谷晋一郎先生は残念ながら体調を崩され、陸前高田入りがかないませんでした。熊谷先生の言葉を紹介しながら、戸羽太陸前高田市長、長谷川順一陸前高田青年会議所理事長、そしてオープニングで陸前高田市ノーマライゼーション大使を委嘱された岩室紳也先生の3名で、それぞれの個性を認め合ってともに生きること、誰もが住みやすいまちにするには何が必要かを考えました。

(3) いま、若い世代に伝えたいサバイバルガイド

コミュニケーション・ネット・デートDV・HIV/AIDS・失恋

上村茂仁先生は産婦人科医として、診療だけではなく、SNSを通じて数多く受けている性の相談の中から、「15歳です。好きじゃない人とセックスして、検査したら妊娠してました」といった相談を紹介しつつ、いま、若い世代が性・こころ・薬物・ネットといった多くの問題に巻き込まれないために何が必要なのか、



広がるAIDS文化フォーラム

佐賀、横浜、京都、陸前高田の全国4か所の開催会場で、
様々な取り組みを行うことができました。

広がるAIDS文化フォーラムパネル展



安田菜津紀さんスライドショー ～HIVと共に生きるカンボジアの人々 復興へと歩む陸前高田の人々～



来場者コメント

- 辛いだらうと思われる環境の中、子どもたちの笑顔がとても輝いていて、心が温くなりました。私はこんなに輝く笑顔になれるのか・・・とってしまいました。ステキな写真ばかりありがとうございました。
- 遠い外国の話とってしまいますが、写真と文章により、そこで暮らす人びとの一端を感じた気がします。どこでも、偏見という感情があることに、悲しいなあと思います。しかし、母子感染なく、丸々と育っている子どもの写真に希望を感じました。
- すごく味わい深い写真がたくさんあって、見ていて感動したり、温かい気持ちになりました。ありがとうございました。これからも頑張ってください。



AIDS文化フォーラムの人びと



広がる AIDS文化フォーラム



予定

- in 佐賀 2017年 6月17日(土)~18日(日)
- in 横浜 2017年 8月 4日(金)~ 6日(日)
- in 京都 2017年 10月予定
- in 陸前高田 2017年 12月予定